女子団体インターハイ全国大会出場

剣風

「剣　風」
題字:細川武敏(41期)筆
ＯＢ会報第13号
平成17年12月1日発行
制作:ｃｂ鼓囃子

祝50周年

OB会ホームページ http://www.sinsyu.or.jp/～kendou/

この頃思うこと

会長　阿部祐之（56期）

最近、何校かの学校訪問の機会を得ました。改築新装なったすばらしい施設設備を見学し、多くの小中学生と接する中で、様々な思いを巡らせました。

最近の学校の施設設備は過去の我々の時代のものとは異り、時代の先端を行く施設と明るくゆとりある空間を備えたすばらしいものです。言い換えれば、子どもたちにとって充実した教育環境だと言えるでしょう。

私たちは子どもに、できるだけよい教育環境を与えたいと思いますが、同時に、どんな劣悪な環境にもへこたれない人間になってほしいとも思います。あまりにすばらしい施設設備を目前にすると、私などはこの思いが後者に傾いていきがちです。良しとしない環境で育った者のひがみでしょうか。

又、子どもたちと接しながら思うことは、何事にも主体的に取り組み、じっくり考えて最後までやりぬく子どもになってほしいと思う一方で、親や先生の言うことを素直に聞いて、すばやく、テキパキと、能率よく、何事も処理する子どもであってほしいとも望んでいます。こんな矛盾だらけの思いを巡らせているこの頃です。

ここで「矛盾」という言葉を使わせてもらいましたが、こんな観点から子どもを見ると、矛盾があってもそれに気づかない子どもが少なくないように思います。外の矛盾だけは指摘し、攻撃しますが、内の矛盾には全く目を向けない子どもです。他人には文句を言うが、同じことでも自分が言われると、カーッとなって腹をたてて暴力をふるい、「暴力をふるったオレは悪いけど、オレに暴力をふるわせたヤツはなお悪い」と、自分が正義のように錯覚していることです。他人に攻撃されたくないといって、自分が他人を攻める。これも矛盾だと思います。こういう矛盾に気づいて、恥ずかしいと思い、そのことにひっかかり、痛みを感ずることが大切のように思います。そんな子どもたちであってほしいと願うのです。

話は変わりますが、上田高校剣道班は戦後の創立より来年で五十年の節目を迎えます。この間、幾多の曲折もありましたが、多くの顧問の先生方、先輩諸氏のご理解とご支援の基で今日を迎えております。

ここに、上田高校剣道班の益々の発展を祈念すると同時に、ＯＢ会員のさらなるご支援を期待するものです。

活動報告

幹事長　若林　健（65期）

本年度も、6月25日上田高校体育館に於いて「宮下杯争奪勝ち抜き戦及び稽古会」が、所を替えて祥園にて懇親会が盛大に行われました。

例年と違って本年度は「女子団体インターハイ出場壮行会」を兼ね、また県大会優勝祝賀会も兼ね、大盛り上がりの総会となりました。

稽古会では、冒頭各物故者の方々に黙祷を以て哀悼の意を捧げ、阿部会長の挨拶の後、上小剣道連盟の宮川克巳会長より班に対して祝辞と金一封を賜り、厳粛な雰囲気の中、第三回宮下杯争奪戦が始まりました。

6月に入ってから最も暑い日となり、現役生の選手諸君はもとより、審判を務める各ＯＢ諸兄にも大変ご苦労であったことと、改めて感謝申し上げます。

しかしながら、皆防具をつけると別人のように見事な竹刀捌きで、心配などどこ吹く風の如く時間を忘れて、現役諸君に稽古をつけていただきました。稽古後、宮坂さんよりいただいた全国で戦う心構えのアドバイスも、きっと大きな力になったことと思います。

祥園にては、総会の議事がスムーズに進行し、事業報告・会計報告・事業計画・予算案が各々承認されました。また、長年の懸案事項でもありました「上田高校運動部ＯＢ会連合会」への参加も承認され、連合会及び学校からも感謝と歓迎の言葉をいただきました。

また、席上顧問の仁木良子先生から県大会優勝までの経過報告と、我々ＯＢ会に対する感謝のご挨拶を頂き、県大会での準決勝・決勝のビデオを見ながら美酒に酔いしれました。

また、ＯＢ会として「インターハイ出場」に対する支援の一環として、会員の皆様にご寄付をお願いしましたところ、百余名の方々から厚い御芳志を賜り、「校章入り胴　七組」「刺繍記名入り袴　七着」「遠征補助金　十万円」を剣道班に対して贈呈いたしました。結果は優勝候補の一角左沢高校に残念ながら敗れ、決勝トーナメント出場は惜しくも逃しましたが、甲府商業に勝ち上田高校の名を全国に知らしめてくれました。

この事は来年戦後創部50周年を迎える我が班にとっては幸先の良いことと、ＯＢ会としましても現役諸君に感謝するところです。

夢は来年「男女アベック出場」などどんどん広がりますが、我々ＯＢ会もこの節目を大切にすべく、羽田副会長・工藤副幹事長を中心に計画を練っております。どうぞ来年のＯＢ会総会はご期待いただきますと共に、万障お差繰りの上ご出席賜りますよう今から予定を入れておいて下さいます様、お願いを申し上げます。

剣道とインターハイの思い出

香山　博（59期）

昭和35年夏のインターハイは、小生に大きな自信をつけさせてくれた一大イベントであった。高校入学後、好きではじめた剣道だから、毎日の稽古が楽しく面白かった。時々、隣の二中から塚原先生が来て厳しい稽古をつけてくれたことも、強くなりたい一心から、つらさよりも喜びのほうが勝っていた。しかし、総じて同好会に毛が生えた程度の稽古だったかなと思っている。それが創意工夫のできる余地を残していたとも言える。

3年になり、東信代表として、県大会に個人、団体ともに出場。県大会でも一日目の個人戦で、準優勝し、インターハイ出場が決定（一・二位の二人が県代表）。その頃、他の運動部では続々とインターハイ出場を決めており、顧問の横谷先生が非常に喜んでくれた。この余勢を駆ってか、実力か、次の日の団体戦でも優勝し、インターハイ出場が決定した。

余談ではあるが、個人戦優勝者は飯山北高生。国士舘出身の木村先生（武道専門学校出身の塚原先生のライバルといわれていた）率いる飯山北高は当時県下では№1と言われており、その壁は大きかった。

インターハイへの出場が決まると同好会的稽古が一変した。先ず、稽古着、防具を先輩方が寄付してくれたこと、体操、卓球、剣道で使用している道場は狭いということで上田公園内の武徳殿を使えるようにしてくれたこと、もっと凄いのは、忙しい中、今は亡き塚原先生、同じく宮下先生を始めとして諸先生、諸先輩方が駆けつけ、激しい稽古をつけてくれたことである。これらの稽古のおかげで何時の間にか少しは強くなっていたのかなと思う。何故か、インターハイそのものの思い出よりも、この時の稽古のほうが印象に残っている。

これらのことができたのも、顧問の横谷先生、荒木先生の力添えがあればこそと思う。横谷先生と稽古したのはほんの数えるほどであったが、ほとんど毎日道場に顔を出してくれ、稽古が終わると雑談に花を咲かせ、疲れをほぐしてくれたことは、稽古と同様大きな効果であったと思う。お宅にも招かれ、小さなお子さんを抱えた奥さんにもお世話になったと感謝している。今は亡き横谷先生との楽しい思い出である。

インターハイ出場メンバーは、監督　横谷先生、先鋒　荒井、次鋒　小泉（現清水）、中堅　新保、副将　橋詰、大将　香山、補欠　羽田敏幸、丈夫　マネージャー　山口である。

場所は高知。鈍行列車に下駄履き、乗り換え時間の少ない宇高連絡船の桟橋を下駄の音を立てながら皆で走ったこと、前夜祭で高知の方々に歓迎してもらったこと、その席上皆で信濃の国を歌ったこと、試合当日会場に行くと、凄い気合が外からも聞こえ度肝を抜かれたこと等を覚えている。四国山脈の大歩危、小歩危を通るトンネル内で山口が汽車の煤煙を目に入れ、旅行中眼帯をしていたハプニングもあった。

試合は、団体戦では3校（上田、串本、長崎西）の予選リーグで1勝1敗、惜しくも決勝トーナメントには進むことができなかった。しかし、負けたとはいえ、剣道の盛んな九州勢に2対3は立派であろう。個人戦では1、2回戦を勝ち、3回戦は鹿児島代表と延長を4、5回繰り返して、結局は負け、悔しかった。しかし、3回戦まで進み、九州勢とこれだけ互角に戦えたことは非常に大きな自信になった。尚、長野県1位での代表は1回戦で姿を消している。

その後信州大でも、2、3年生まではその稽古の効果でそこそこの戦績であった。入学早々の3大学対抗で優勝、2年では初めて出場した北信越で優勝し、大阪での全国学生剣道大会出場、2、3年と続けて国体出場、また、夏の全信州大（阿部会長はじめ上田高校出身者が多かった）の合宿で県警機動隊連中との稽古等、剣道には若き日のよき思い出がたくさん詰まっている。社会人になってもこの時の自信が人生の大きな支えになっている。

今年は女子がインターハイ出場、おめでとう。稽古での忍耐、そしてその結果としての自信を胸に秘めて力強く今後を歩んでほしい。

審判席から見た母校の活躍

宮﨑　浩（79期）

6月11日・12日に松代高等学校で行われた長野県大会で、母校上田高等学校剣道班は女子団体で見事優勝を果たした。この大会に審判として参加していた私は、母校の活躍ぶりを試合場に一番近い場所で見届けることができ、至福の時を味わうことができた。まずは、女子選手の皆さんに優勝のお祝いを申し上げるとともに、監督および男子選手を含めた関係者の皆様に感謝の気持ちをお伝えしたい。

さて、今回『剣風』にインターハイ出場特集を組むにあたり、審判席から見た感想を寄せて欲しいとの依頼があった。今までの私は高校の剣道部を指導する立場にあったため、上田高校はライバルの一つとしてしか見てこなかった。しかし現任校では剣道部を見る機会に恵まれず、今回の大会は純粋に一審判員として試合を見ることができた（多分に母校の応援団としての気持ちがあったことは否定できないが…）。そこで、応援者の一人であると同時に審判として試合を見せていただいた感想を述べたいと思う。

初日、試合場で応援に駆けつけていた近藤君に声をかけると、「女子も男子もいいですよ。応援してやってください。」と胸を張って答えてくれた。その言葉どおり、男女ともに素晴らしい試合を展開してくれたと思う。残念ながら男子は決勝トーナメントに進めなかったものの、女子は危なげなく予選リーグを抜け出した。やや小手先の技や鍔競り合いでの甘さが見られたように感じたが、姿勢の良さ・当たりの強さが今年のチームの特徴で、よく鍛えられているとの印象を受けた。しかし、さすがに決勝トーナメントは3試合すべてにおいて苦しい試合の連続であった。奇しくも相手はすべて私の所属する北信の学校であり、時々練成会等で竹刀を交え、もちろん北信大会での活躍ぶりをよく知っているチームであった。期待と多少の不安を抱えながらの観戦になったが、見事に勝ち進んでくれた。北信越大会出場をかけた決勝トーナメント1回戦では0―2から、準決勝・決勝はいずれも大将が引き分けでも敗退という状況からの逆転勝利であった（状況は違うが、自分が高3の時の東信大会決勝で当時圧倒的強さを誇った小宮山（彼はこの年個人戦で四国インターハイに出場している）を大将に据えた我がチームが0―2からの逆転で優勝したのを思い出した。北信地区の審判が多かったこともあり、審判席では「大将が引き分け狙いに行ったことが（北信チームの）敗因だ。」との声が聞かれた。確かに相手校の大将には「引き分けでも勝ち」といった気持が見えたように思う。しかし、何よりもその苦しい状況の中で1本を取って勝利に結びつけた選手の頑張りに賛辞を贈りたい。また、攻めの気持ち・勝ちへの執念がいかに大切かを思い知らされた試合でもあった。試合後、応援席から沸きあがった歓声、監督を囲んで涙する選手諸君を見ていて、本当に良い試合を見せてもらったと感謝の気持ちでいっぱいになった。君たちは本当に素晴らしい後輩たちである。

最後に、剣道の醍醐味は中心を攻めて先を取ることにあると私は考えるし、上田高校の剣道もそれを目指して来たように思う。全国の舞台では、攻める気持ちを忘れずに、上田高校剣道班らしく、限られた者しか味わえない試合を十分に楽しんできて欲しいと願っている。そして、日頃お世話になっている顧問の先生方や指導していただいた先生方、何よりも皆さんを支えてくれているご家族の皆さんへの感謝の気持ちを忘れずに試合に臨んでもらいたい。もちろんこの経験が今後の諸君の将来につながることは間違いないものと確信する。

昔　剣道今昔　今

校友会誌　昭和六年

▲七月三十一日（大會前日）
一、選手歓迎會（正午）
於京都帝大本館
二、代表者打合會（午後七時）同
▲八月一日（第一日）午前八時より
一、開會式
1、開式之辭　2、君ヶ代齊唱
3、優勝楯及優勝旗返還　4、會長式辭　5、總理大臣訓辭　6、文部大臣訓辭　7、大日本武德會々長辭　8、大阪毎日及東京日日新聞社長祝辭　9、來賓祝辭　10、選士總代宣誓　11、閉式之辭
一、大日本帝國劍道型（範士小川金之助、教士宮崎茂三郎）
三、試合開始
▲八月二日（第二日）午後一時より
一、試合開始
二、閉會式
1、開式之辭　2、優勝楯及優勝旗授與　3、會長挨拶　4、萬歳三唱
5、閉式之辭

第二回全日本學生聯盟劍道大會之記

試合は代表校二十（後に示さん）を四校宛ABCDEの五組に分ち總當法により第一位校を定め、第二位校五にて決勝を行ふ。A組岡山黌B組高松中學C組小樽商業D組京都師範E組巣鴨中學第一位となり決勝戦によりて中學岡山黌優勝し名聲を博せり。

第二回　石川師範　（北　陸）本校
略
第拾二回　高松中學　（四　國）本校
略
第二二回　鹿児島一師（南九州）本校
略

右の通にて遺憾ながら零敗となり萬事休す。三十一日京大本館ホールの選士歓迎會に出席様子を見れば何ぞ計らん敵共は四五日早きは十日も前より出陣なして試合場にて練習に練習を重ねて英氣當るべからず恰も伏兵に偶ひたる感起り先づ第一に大切なる意氣を制せられた。亦一日飽くまで運命の神に見捨てられたのか試合開始に當りて未だ一回も道場を踏まざるに我等第二道場の第一回目の初陣を命ぜられ茲に於て再び若人の意氣千々に亂れた。かくの如く意氣沮喪が原因をなして平素の技倆を充分發揮し得ず敵に名を得しめしは更に残念至極なり。今尚當時を追憶して切齒扼腕涕涙禁ずる能はず、我等は甲信越代表の名誉を傷けし罪を深く恥ぢ陳謝する次第である。我等とて数日前に彼の地に弛せ參じ地の利意氣養成などの志中心にむら々燃え居りしが、如何せん軍用金の缺乏を。

代表者打合會（小林、水野出席）に於て參加各校の經費承り度しとの事にて代表校一覧表の順序に申出たり。
參考迄に記さん。

○小樽商業　三五〇圓
○青森師範　二〇〇圓
○小中田農林　四〇〇圓
○栃木師範　二五〇圓
○巣鴨中學　三五〇圓
○濱松師範　一五〇圓
○熱田中學　一五〇圓
○上田中學　九〇〇圓
○石川師範　一七〇圓
○京都師範　五〇圓
○北陽商業　一五〇圓
○大社中學　一五〇圓
○中學岡山黌　三〇〇圓
○高松中學　一八〇圓
○福岡中學　三〇〇圓
○熊本中學　四〇〇圓
○鹿児島一師　四〇〇圓
○京城中學　四五〇圓
○台北商業　七五〇圓
○満鐵育成　五六〇圓

終りに、我が先輩大澤、中曾根、安藤の三氏が我等を夕飯にお招き下さり亦色々御心配して頂いた事を厚く心から御禮申し上ます。不案内の土地でしたから我等は非常に力強く思った。

顧問雑感

仁木良子（なおこ）

信じられないかもしれませんが、本当のことです。「私たち」は「本気」で、インターハイを狙っていました。男女ともに。それはなぜか。この仲間と共に三年間というわずかな期間、剣道を志すならば、最高の日々にしよう、最高の仲間を作ろうとしたからです。だから、心に蘇る日々がとても愛しい。まずは、この最高の日々に、感謝したいと思います。

そして「本当に」、悲願の「女子インターハイ全国大会初出場」というご褒美をいただきました。嬉しかった。班員全員が本当によく頑張った。素晴らしい団結力だった。監督としてもこの上ない経験をさせてもらい、感謝しています。また、OBの方々の多大なるご援助、保護者の方々のご理解とご声援、地域の方々のご指導という大きな力があってのことと思います。紙面をお借りし、心より御礼申し上げます。

さらに、強力な指導者として、本校剣道班OBでもある、近藤敏朗先生に来ていただいて一年半になります。剣道だけでなく細部にわたり指導してくださり、確実に現役生の力が伸びていることを実感しております。

さて、今年8月から新チームでスタートし、さらに高い目標を掲げ日々稽古に励んでおります。迷うこともあります。怖くなることもあります。そんな時脈々と続いてきた上田高校剣道班の歴史・伝統に思いを馳せ、「本気」で鎬を削り合い、何事にも屈することなく前進していく所存です。今後ともご指導宜しくお願い申し上げます。

平成17年戦績

北信越新人大会（富山県）
　男子ベスト8、女子ベスト8
ジュニア強化錬成大会
　女子3位
高校総合体育大会　東信大会
　団体戦　男子3位、女子優勝
　個人戦　女子　松井弓苗準優勝、滝浪　遥3位、岩田菜里子5位
高校総合体育大会　県大会
　団体戦　女子優勝
　個人戦　女子　岩田菜里子・滝浪　遥　二回戦敗退、松井弓苗　一回戦敗退
北信越大会　（新潟県）
　女子団体　1勝2敗
全国高校総体（千葉県）
　女子団体　1勝1敗
第一回宮下杯争奮戦
　男子優勝　矢ヶ崎心哉、準優勝　長谷川勇太
　女子優勝　滝浪　遥、準優勝　岩田菜里子
東信高校選手権大会（学年別個人戦）
　2年男子　矢ヶ崎心哉優　勝
　2年女子　松井弓苗優　勝
　1年女子　滝浪　遥優　勝、保坂　純3位
舞台が丘剣道大会
　男子　Aチーム　準優勝
東信青少年剣道大会（彰剣旗）
　女子優勝、優秀選手　保坂　純
高校新人体育大会　東信大会
　団体戦　男子　準優勝、女子　準優勝
　個人戦　男子　小林厚志準優勝、山浦　翔ベスト8
　　女子　岩井麻衣子・保坂　純ベスト8
高校新人体育大会　県大会
　団体戦　男子　3位
　個人戦　男子　小林厚志二回戦敗退、山浦　翔一回戦敗退
　　女子　保坂　純ベスト8、岩井麻衣子一回戦敗退

会員よりのメッセージ

参与　荒木豊治

思うに長い人生で、生涯忘れ得ぬ程の感動や感銘を経験することは、ザラにはありません。卒業生の間で隅々〝剣道〟の話しが出ると必ずと言っていいほどにいつも懐旧談になります。およそ高校のクラブ活動での輝かしい成果は、三年間の努力と苦難の末に掴んだインターハイ出場こそは、最高の喜びと栄誉の象徴でしょう。齢正に還暦に達し、老境に入ろうとしている諸君が、再び味わうこともない歓びを語るのを前にして、ああこれが苦難を共にした仲間達との離れがたい絆を作ったのだと思わずにはおられません。おのれの生涯に刻印を捺すために、在校生の諸君の一層の精進を願わずにはおられません。少々歩行に困難を感じています。ご盛会を祈ります。

顧問　青木歳幸

ご苦労様です。当日は出張があり参加できません。お陰様で女子インターハイ北信越大会・全国大会に出場します。これからもご支援ご指導よろしくお願いします。

37期　宮沢大七

県大会優勝・インターハイ全国大会出場おめでとうございます。各位長年応援の成果と、敬意と祝意を表します。総会のご盛会と今後の活躍を祈念致します。

39期　荻原秀治

ご盛会を祈念します。

41期　中村好和

6月25・26日と東北のNPO国際社会剣道クラブの「東北クラブ」の例会が岩手県花巻市であり、そこの会長しているので出席できません。ご盛会を祈ります。小生、只今〝社剣連〟の全国の会長と東北ブロック両方の会長をしています。長野県は東海ブロックに入りますか。

41期　宮坂　裕

OB会500名とはすばらしい事です。ご盛会を祈ります。

44期　宮下英世

第一回宮下杯に出席し感動しました。兄の願いが叶えられたことをうれしく思いました。昨年・本年とも会議と重なり残念です。現役の部員の皆様方のご健闘を祈ると共に、OBの皆様の温かいご支援を願っています。

46期　井出賢次

今回は他の会と重なり欠席します。戦後最後の剣道部の皆さんが殆ど出席が無く、いつも寂しい思いをしています。教え子も多いので、次回は出席したいと思います。幹事の皆様ご苦労様です。出席の諸兄によろしくお伝え下さい。

55期　堀内三喜男

毎回欠席ですみません。

56期　大日方　昴

千葉大学理学部生物学科での33年間の勤務を終了しました。この間、筋肉の収縮制御のしくみ、運動装置の形づくりの仕組みを中心に研究してきました。研究は現在も継続しています。剣道とは全く無縁ですが、ランニングを楽しんでいます。継続は力、現在もフルマラソン4時間を切っています。剣道部の益々の活躍を祈ります。

57期　田中義司

生憎、当日他の行事と重なっております。今年も出席できかねます。皆様によろしくお伝え下さい。別便で会費相当分を振り込みますのでしかるべくご処理下さいますようお願い致します。御会のご盛会をお祈り致します。

58期　保科紀丈

いつもお世話様です。都合により欠席させて頂きます。

59期　香山　博

昨年6月サラリーマン生活に終止符。自由の身となりましたので、久しぶりにOB会に出席したいと思っています。初回以来かな？横谷先生を初め、塚原先生、宮下先生達にお会いできないのは残念ですが、同年配の人達に会えるのは今から楽しみにしています。

59期　山口元彦

ご活躍の報を楽しみにしております。頑張って下さい。

61期　羽田敏幸

昭和30年（1955年）戦後剣道班が復活し50年が過ぎ、当時お世話になった大先輩・諸先生方が次々と故人となられ淋しい思いをしている昨今ですが、女子団体がインターハイ出場というビックニュースは50周年を記念する快挙です。班員の皆さんに拍手を贈ります。顧問の仁木（良）先生、剣道班に残された最後の課題、女子団体の全国大会出場の夢を果たしていただきOBとして、元顧問として御礼申しあげます。

61期　羽田丈夫

この3月、県農事試験場での38年間の研究生活を終え、定年退職いたしました。現在上田市に住んでいますが、佐久市に四反百姓がありますので、晴耕雨読の生活を送っています。春には、日本列島の桜前線を追って、自家用車にて鹿児島から下北半島まで旅をし、桜の開花を堪能しました。OB会員の皆様のご健康とご活躍を念じております。

62期　飛田武昭

現在、週一回7段8段の先生と岐阜県笠松の剣友会で稽古して、体調のバロメーターにしています。小中学生の子供達の指導もしています。剣道は最高です。

64期　宮坂昌之

5月の全日本剣道演武大会（京都大会）に今年も出場しました。東京の7段の方と対戦。稽古不足だったのですが、運良く二本勝ちでした。今年こそは年間百回稽古を、と思っていますが、6月7日現在まだ41回です。

64期　宮坂信之

全日本剣道連盟医・科学委員として「剣道医学Q&A」改訂版の編集を中心になってやっている所です。

66期　清水通男

色々会からのお誘いがあり、忙しくしています。なかなか上田へ帰省する機会がなく、剣道班OB会の時しか、上田へ行かなくなってしまいました。皆様に会えるのが楽しみです。

66期　秋山信吾

3年半単身で札幌におりまして、昨年3月より千葉に戻ってきています。

66期　高寺好一

幹事役ご苦労様です。皆様によろしくお伝え下さい。

71期　関　省吾

6月6日子団体優勝を知りました。快挙ですね。ようやく体調回復してきております。当日お手伝いありましたら力を尽くします。

72期　竹内茂直

昨年7月、新潟県上越市に転勤となりました。豪雨・地震・豪雪と新潟は天災続きでしたが、酒・さかなの美味しい土地柄、元気でやっております。

73期　今井元夫

インターハイ出場おめでとうございました。どんなに動いても、一晩眠れば回復してしまう若い時期、エネルギーを存分に発散して、全国の剣道に当たってきてください。益々のご活躍をお祈り申しあげます。

74期　金澤勝幸

ごくろうさまです。

74期　篠塚亜津砂

ご盛会をお祈りいたします。

74期　関口悦子

連絡有難うございました。皆様のご活躍をお祈りしております。

74期　関戸啓司

女子団体のインターハイ出場、誠におめでとうございます。健闘を祈ります。25日あいにく中学校の北信大会につき、保護者会の会長の立場上どうしてもさけられず、申し訳ありません。

74期　山田恒昭

祝　上田高校剣道　女子団体インターハイ出場！結果を出しましたね。

75期　澤山武文

住所が変更になっています。

76期　小野満也

佐久総合病院で、リウマチ膠原病内科をさせていただいております。皆様のますますのご健勝をお祈りします。

76期　佐藤　博

平成17年度県大会・インターハイ出場おめでとう。ご健闘を祈ります。

76期　松井　敦

今春、高校の中信大会に於いて進学校の深志高がついに松商学園高を破って優勝しました。文武両道をつらぬく深志高の選手達は大泣きして喜んでいたとのこと。昔の我々もこんな気持ちでいたなあとうれしく思い、拍手をおくっています。

78期　高橋光公

上田高校剣道班のご活躍と、ご発展を祈念申しあげます。

79期　池田俊朗

新聞で見ましたが、女子団体戦ではインターハイへの進出とのことで、大変おめでとうございます。日頃の鍛錬が実ったのだと思います。今後も、男子・女子共に一層の精進を期待しています。

79期　宮崎　浩

優勝の時を審判席で見させていただきました。素晴らしい試合でした。OBとして至福の時を味わうことが出来、選手の皆さんに感謝しています。指導にあたられた先生方、応援の剣道班員の皆さんの努力にも敬意を表したいと思います。有難うございました。

81期　八尋岳美

インターハイ出場おめでとうございます。皆さんのご健闘を祈っております。

82期　竹内英樹

仕事の都合で東京に来ていますが、来年あたりは長野に戻れそうです。その際はお願いします。

82期　菊山いずみ

中学一年生の息子が体育の選択科目で剣道を選び、私が昔使っておりました面下を頭に巻く練習をしておりました。

83期　塚田真理子

毎年ご連絡をいただき、有難うございます。会報で在校生のご活躍を知るのを楽しみにしています。

83期　山本和佳

インターハイ出場おめでとうございます。ご健闘をお祈り申しあげます。

88期　田村　敦

現在飯山市立第二中学にて剣道部顧問をしています。中体連の北信大会と日が重なってしまっているので、稽古できず残念です。

95期　浅井美香

上田高校女子団体優勝、インターハイ出場おめでとうございます。私達の長年の夢がかない感激しております。インターハイでの活躍期待しております。

96期　松崎紀子

県大会女子団体優勝おめでとうございます。インターハイでのご活躍期待しています。

97期　工藤裕美子

女子優勝おめでとうございます。

101期　上原巧也

女子団体・インターハイ出場おめでとうございます。都合により出席できません。皆様によろしくお伝え下さい。

101期　松林幸雄

ご無沙汰しております。今年の現役生が大会でよい結果を出せるようお祈りしております。

訃報

戦後の剣道部発展のためにご指導を頂いたお二人の先輩がお亡くなりになりました。

大石　治氏（41期）

先生は小県蚕業・上田東、岩村田、丸子実業高校に勤務されそれぞれの学校で選手を育てインターハイ出場に導き、その間、東信高体連剣道部の初代専門委員長として、東信のみならず県の高校剣道発展にご尽力され、退職後は上小剣道連盟会長として地域の中心となって活躍されました。また、OB会初代会長・顧問として母校剣道部のために最期まで尽くされました。今年3月にご逝去。

依田嘉人氏（32期）

先生は上田の裁判所（現市役所のある場所）に勤務されており仕事帰りに塚原（36期）、宮下（38期）先生らとしばしば道場に顔を出され厳しい稽古をつけて頂きました。県外に転勤された後も、毎年剣道部への後援活動を続けて来られました。今年5月にご逝去。

インターハイ当日を振り返って

三年　岩田菜里子

会場は本当に活気溢れていました。自分たちがここにいるんだと、一番実感したのは、開会式の入場行進のときだった。

私たちの試合は十試合目だったので、結構時間がありました。早めにお昼を食べて、気持ちを整えていました。その間、皆緊張していたと思うし、それぞれいろいろ考えながら過ごしていたと思います。初めて経験する雰囲気に呑まれることなく、いつもと変わらない試合前でした。でも本当のところ、私は少し呑まれていました。私にとっては、試合のことを考えたり、他校の剣道を見たり、お互い声を掛け合ってチームで気持ちを高めていく、試合前のこの時間が、一番楽しかったかもしれません。最後の練習では、全力を出し切ることを皆で確認し、いつもと同じメニューの練習が出来、いい状態で試合に持っていくことが出来たと思います。

初戦は強豪、左沢（あてらざわ）との対戦でした。左沢は体格もよく足腰もしっかりしていました。私たちは、技や駆け引きで食らいついていきました。先鋒は、先鋒らしい元気のある戦いぶりを見せてくれましたが引き分け。続く次鋒はメンを取られて一本負け。中堅は、はじめドウを取られたのですが、すぐに思い切りのよい相メンで取り返しました。しかし延長で、相手の得意技である引きメンをとられてしまいました。副将の相手は上段で、その相手に対しても、間合いを取りながら、じっくり狙った試合を展開しましたが、メンを取られて一本負けでした。副将戦を見ているときは、副将が勝ってきた場合、負けた場合のそれぞれを想定しながら、自分の戦い方を考えていました。この時間は、正直いつも恐ろしい時間で、このときも弱い気持ちを抑えるのに必死でした。そして、チームの負けが決まったときは、もうとにかく真っ直ぐ前に出ようと思いました。コートの上に立った時は、思ったより冷静でいられました。私が引き技を打った後、相手が間合いをつめてきて相メンになったのですが、メンに飛び出した瞬間「しまった」と思いました。私の方が出遅れていて、一本取られて負けてしまいました。試合の感覚は今でもよく覚えています。

二試合目の対甲府商業戦へは、それぞれがどんな気持ちで臨んだのかは分からないけれど、全員にとって印象に残る試合となったのではないかと思います。先鋒は初戦よりさらに元気のある試合をし、つばぜり合いからの引きドウを決めて一本勝ち。次鋒は得意のすり上げメンなどいい技をいっぱい出していたのですが、ドウを取られて一本負け。中堅は二本勝ちで、副将は延長の末、一本負け。大将は初太刀のコテの一本勝ち。最後はチームの勝利で締めくくることが出来ました。

あの四日間を通して持ち帰ってきたものは大きかったと思うし、今改めて振り返ることで、また得られるものがあります。インターハイという大きな場所で、試合をしたり、応援をしたり、一日を過ごした感覚は、これからも、大切にしていきたいと思います。温かい応援、本当にありがとうございました。

宮下杯優勝者

二年　矢ヶ崎心哉

深呼吸。心を静める。物音ひとつない道場。宮下杯決勝戦。目の前には豪快な面技とその堂々とした剣道でチームを引っ張ってきた元主将の長谷川先輩。

立ち合いから次から次へと鋭い打突が繰り出された。流石だ。これが自分達のチームを引っ張ってきた人の力なのだと改めて痛感した。だが、その打突をかわし、つばぜりになった瞬間、無我夢中で引き胴を放ち、なんとか一本先取した。しかし、もちろん気を抜く余裕などない。前よりも鋭い攻めと打突が繰り出される。そしてつばぜりから相手の引き胴を押さえた瞬間だった。「いける」そう思うか思わないかの刹那、またしても無心で面に飛んだ。手ごたえはあった。応援の歓声が聞こえ、主審の宣告を聞いた。「面あり。」

今、自分は主将をやらせて頂いている。一人の剣士として伝統ある剣道班に新たな伝統を加え、新たな時代を築きたい。

一年　滝浪　遥

初めての宮下杯。それは県大会で優勝したすぐ後のことでした。県大会があったせいか、とてもいいコンディションで臨むことができました。緊張はしていました。しかし、相手と対峙した時の張り詰めた空気がなんとも言えず、楽しかったです。決勝戦で一本を決めることができたのは試合終了直前の面でした。その時は喜びと驚きで一杯でした。相手も自分も必死になったいい試合だったと思います。その時に頂いた木刀は毎日の素振りに使っています。現在はもっともっと強くなるために、全員で切磋琢磨しています。宮下杯の開会式の際、OBの方々は上田高校剣道班のインターハイ出場を心から喜んで下さいました。私達がおもいっきり剣道に励むことができるのも、OBの皆様をはじめ、多くの方々のおかげです。本当にありがとうございます。そして、これからも剣道班一丸となって頑張っていきますので、よろしくお願いいたします。

「現役生の声」

主将　長谷川勇太

「今日の練習これまで!!」という自分の言葉で終わる。辛くても楽しい、そんな毎日が今はとても昔のように思えます。竹刀を鉛筆に持ち替えて机に向かっている毎日だからなのでしょうか。その間にも後輩達は精進を重ね、先日の新人戦県大会においては男子団体戦三位入賞で北信越大会出場を決めました。先輩として誇らしく思います。

思えば自分達の代になってからこの一年、色々のことがありました。北信越大会で他県の猛者と渡り合ったり、三十九度の熱をおして大会に出場し、実はインフルエンザだった！なんてこともありました。その中でも一番の思い出は女子団体のインターハイ出場です。県大会の決勝で岩田さんが引き面をとって勝った時、おもわず田村君とハイタッチしてしまったことを今でもよく覚えています。そしてインターハイでの堂々と戦った姿には本当に憧れました。（試合をしたくてウズウズしていました。まさに蛇の生殺し状態！）

このように本当に様々なことがありましたが、その分だけ一人一人が大きく成長できた一年でした。自分がその中で一番実感したのは〝人の輪〟でした。友達・先生・保護者の方々などの強い輪によって支えられていたということです。〝人の輪〟のすごさというのを今もなおとても強く感じています。それも含めて、今まで剣道から学んだ数多くのものはこれからの人生で必ず役立っていくと思います。　卒業してそれぞれの道へ進もうとも各自が学んだことを忘れなければ必ず前途は開けるはずです。

最後に、お世話になった全ての方々にお礼を述べたいと思います。

ありがとうございました。

千葉きらめき総体　平成17年８月１日～20日

来年度のOB会は六月二四日㈯です

編集後記

剣道班50周年という大きな躍進を祝うように、女子団体・インターハイ出場という輝かしいニュースで巻頭を飾ることができました。各界でご活躍のOB諸氏も後輩に負けず剣の道に精進し、さらにまた、共に語り合った多くの夢を実現していただきたく、これからも「継続は力なり」の心で末永いOB会の発展にお力添えくださいませ。

（W記）

新年会のお知らせ

日時　一月二日　午後五時三十分

会場　ささや

当日は午後三時より本校第二体育館にてOB・現役生合同稽古会を行います。

問い合わせ先　幹事　中澤彰博（100期）

090-8517-9083

●会費納入のお願い●

会費（三千円）納入は…三月三十一日までに納入してください。

○連絡先変更の方は幹事長までご連絡をお願い致します。

幹事長　若林　健

☎0268-22-1589

〒386-0012　上田市中央二-四-一三

E-Mail wakana2@ueda.ne.jp